

『市民研通信』定期コラム

「トピック・ミニ解説」01_第 82 号掲載分

005_ ノンアルコールビールあれこれ (1~4 ページ)

006_ 三春町の安定ヨウ素剤配布の経緯と課題 (5~9 ページ)

.....

ノンアルコールビールあれこれ

森川浩司 (お酒の文化と科学プロジェクト)

2025 年 10 月 4 日

「お酒の文化と科学プロジェクト」ですが、いやだからこそ、お酒の”周り”の話題も扱います。今回はノンアルコール飲料、特にノンアルコールビールについてのお話です。

ノンアルコールビールを飲む

2025 年 7 月 26 日に市民科学研究室の事務所にて、ノンアルコールビールの試飲会を行いました。「お酒の文化と科学プロジェクト」メンバーが各自お薦めのノンアルコールビール(と、アルコールの入っていない飲み物は飲み物ではないというメンバーは低アルコールビール)を持ち寄って、試飲会参加者みんなで飲み比べしてみようという会でした。

当日は、ノンアルコールビールってこんなに種類があるのか!とびっくりするくらい、日本製・海外製のノンアルコールビールが揃いました。私が持参したうちのひとつはアサヒビール株式会社(以下アサヒ)の「アサヒゼロ」。これを最初に飲んだ時は衝撃的で、「これはビールじゃないか!」と思ったのを覚えています。20 年以上前にもノンアルコールビールを飲んだことがあります。当時は種類は少なく、また飲んでみても「これはビールの感じがまったくしないなあ」と思った記憶がありますが、今回はあまりにもビールっぽかったからか、アルコール 0.00%なのに軽く酔ったような感じがしました。運転するからノンアルコールビールを飲む、という場合がありますと思いますが、軽く酔ったような感じがするけどアルコール検査では反応なしとなるのかどうか気になったくらいです。

そんなノンアルコールビール試飲会については〇〇さんによるレポートがありますので、詳しくはぜひそちらを読んでいただければと思います。

ノンアルコールビール調査を読む

広がりと深まりを感じさせるノンアルコールビール。それに呼応してノンアルコール市場に関する調査も複数出てきています。ここではサントリー株式会社（以降、サントリー）と麒麟麦酒株式会社（以降、麒麟）による 2024 年の調査を比較しながら見てみたいと思います。（参考文献の欄にリンクを載せています。）

1. 調査の概要

サントリーの調査対象は、一都三県（東京都・埼玉県・神奈川県・千葉県）に在住する 20～60 代の男女 30,000 人のうち、ノンアルコールビールテイスト飲料（以降、ノンアルコールビール）の月 1 日以上飲用者 1,238 人。

麒麟の調査対象は全国の 20-59 歳男女 960 名（学生除く）。

どちらもインターネットでの調査です。

2. 市場規模

サントリーの推定によると、ノンアルコールビールの市場はこのところ頭打ち傾向ですが、ビールテイスト以外（チューハイテイストやワインテイストなど）が伸びている影響で、ノンアルコール飲料全体としては市場規模は年々少しずつ拡大しています。

2021 年にやや大きな拡大がみられていて、これについてのサントリーのコメントは特に見当たりませんが、インターネットで調べてみると、コロナ禍による家飲みが増えて健康に気を使ってノンアルコール飲料の消費が増えたのではないかという推測をみつけました。

スーパーマーケットのお酒コーナーに行くと、ノンアルコール飲料はノンアルコールビールの他にいろいろな種類のものがたくさんあって、売り場スペースもそれなりに大きく、市場の拡大を実感できます。

3. ノンアルコール飲料の飲用経験

サントリーの調査でも麒麟の調査でも、ノンアルコール飲料を飲んだことのある人は調査対象の半分弱で、飲んだことのある人の中の約 8 割くらいはノンアルコールビールを飲んだことがあるようです。

サントリーはここ何年か同じ内容のノンアルコール飲料の調査をやっているようで、2023 年の調査との比較があり、1 年以内に飲んだことのあるノンアルコール飲料の中でノンアルコールビールは約 8 割で変化はありませんが、ノンアルコールワインテイストやノンアルコールカクテルテイスト、そしてノンアルコール焼酎テイストの割合が増えています。

私もノンアルコールワインテイスト飲料を飲んでみました。ワインからはだいぶ遠い感じがしましたが、どうせノンアルコールならと葡萄ジュースを飲むよりもノンアルコールワインテイスト飲料の方がワインの代替にはなるのだろうなと思いました。

4. ノンアルコール飲料の飲用シーン・飲用理由

サントリーの調査でも麒麟の調査でも、どういうときにノンアルコール飲料を飲むか、その飲用シーンについての項目があり、どちらもアルコールが飲めない場面で代替品として飲まれていることがうかがえます。

サントリーの調査には世代別の回答も載っており、20 代は「夕食後」「昼食時」「休日の昼間」「料理をしながら」という場面での飲用比率が他の世代よりも多くなっています。若い人はアルコールの代替品として以上にノンアルコール飲料に親しんでいる感じがしますね。また飲用理由については、アルコールが飲めない状況の他に、健康面から（例えば休肝日の飲み物として）飲まれたりしているようです。加えて、リフレッシュ・気分転換という理由もそれなりに割合が高く、ノンアルコール飲料にはアルコールの代替品という以上の役割もありそうです。

5. こんな場面でノンアルコール飲料は OK?NG?

麒麟の調査では、ノンアルコール飲料を飲むことに対する抵抗感の有無をシーン別に尋ねています。個人的にはこの結果がいちばん面白かったです。

就業時間中の飲食店での一人ランチ・同僚とのランチ、オフィス内でのランチ、オフィスの自席、仕事の会議中に、いくらアルコール 0.00%だからとはいえノンアルコール飲料を飲むのは是か非か？あなたならどれは OK でどれは NG でしょうか？

どんな結果が出たか、興味ある方はぜひ麒麟の調査結果をご覧ください。

昔のノンアルコールビールは、ビールを飲みたいけれど今は飲めないからしかたなく代替品として飲む飲み物という位置づけだったと思いますが、今は健康志向もあって体にいい成分が入ったいわゆる機能性飲料の側面を持つものもあり、積極的にノンアルコール飲料を飲む・楽しむというように変わってきている印象です。

考えてみれば、食事にあわせるノンアルコール飲料の選択肢は実は今まであまりなかったのかもしれませんが。クラフトコーラがブームですが、そんな風に、ノンアルコールビールに限らず食事に合わせて楽しむノンアルコール飲料のクラフトものがどんどん出てくる可能性も考えられます。アルコールが飲みたいけれど飲めないから、ではなく、気分やシーンに合わせてアルコールやノンアルコールを自在に切り替えて楽しむ、いろんなアルコール飲料があるようにいろんなノンアルコール飲料を飲み分ける、そんな時代が来ているのかもしれません。

私が「これはビールじゃないか!」と思ったアサヒの「アサヒゼロ」は、濃厚なビールを醸造してからアルコール分を完全に取り除くという製法で作られているそうです。これと同様にラガータイプのビールを醸造してからアルコール分を完全に取り除くという製法で作られた「ラガーゼロ」が麒麟から発売になりました。飲んでみたところ、「アサヒゼロ」ほどの衝撃はありませんでしたがこれまた確かにかなりビールっぽく、そしてまたまた飲んだ後少し酔っている感じがしました。

ビール・発泡酒・第 3 のビール(新ジャンル)などビール系飲料の酒税が 2026 年 10 月から統一されますが、サントリーが第 3 のビールのヒット商品「金麦」をビール化することを 2025 年 9 月末に発表しました。そのサントリーはまだアサヒの「アサヒゼロ」や麒麟の「ラガーゼロ」のような商品は発売していません。ビール系飲料の酒税統一でビールが盛り上がりそうですが、ノンアルコールビールも同様に盛り上がりそうで、季節はすっかり秋になりましたがビールもノンアルコールビールも(そしてその他のノンアルコール飲料も)これからますますアツくなりそうです。

参考文献

麒麟麦酒株式会社, 2024, ノンアルコール飲料意識調査 2024【グリーンズフリージャーナル】
, <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000148389.html>

サントリー株式会社, 2024, ノンアルコール飲料に関する消費者飲用実態・意識調査 サントリー ノンアルコール飲料レポート 2024, <https://www.suntory.co.jp/news/article/14622.html>

三春町の安定ヨウ素剤配布の経緯と課題

～個人の情報収集と迅速な判断が命を救う～

田口 茂（低線量被曝研究会）

2025 年 8 月 22 日

はじめに

福島原発事故から 14 年半。原発事故が無かったかのように、経産省は原発の再稼働を推進している。原発事故時に放射性ヨウ素が環境中に放出され、そのプルームに含まれる放射性ヨウ素を呼吸や飲食物を通じて人体に取り込まれると、放射性ヨウ素が甲状腺に集積し、放射性被ばくによって 1 年程度～数十年後に甲状腺がんを発生させる。それを防ぐためには、事前に安定ヨウ素剤を服用することが重要となる。

福島原発事故時には原子力安全委員会（当時）は 3 月 12 日 10:40 頃、経産省 ERC（政府原子力災害対策本部 事務局）に“レベル超はヨウ素剤投与すべき”と FAX。ERC のリエゾンが受領したが、班内で共有・検討されず、現地にも伝達されなかった。その結果、安定ヨウ素剤が県民に行きわたることは無かった。服用指示が多くの市町村に出ず、初期被ばく低減措置が取られなかった責任は政府や県にある、「知事の権限の不行使」も要因と国会事故調は評価している。この反省こそ、今後全国で活かさなければならないのに、原子力規制庁の安定ヨウ素剤配布の具体的方針は未だに不透明（議論中？）のままだ。

詳細以下の原子力規制庁の HP をご覧ください

[安定ヨウ素剤の服用等に関する検討チーム|原子力規制委員会](#)

原発事故発生時に安定ヨウ素剤を住民全員に行きわたらせて、どのタイミングで服用してもらうのかのマニュアルづくりが各自治体で実施されてはいるが、自治体毎に異なったマニュアルとなっている。その為にマニュアルに不備は無いのか？実際の運用がうまくいくのかは不透明な状況のままである。原発再稼働を推進しながら、事故時の国（原子力規制庁）は避難計画や安定ヨウ素剤配布については自治体任せで、無責任極まりない状況が続いている。

2. 福島県三春町の安定ヨウ素剤配布の経緯と実体

そこで、福島原発事故時に素早い判断で住民に安定ヨウ素剤を配布し、服用させた福島県三春町の実態について簡単に解説する。全国の自治体への展開を望みたい。

昨年8月に三春町で開催された、展示会と講演会『風しもの村、風しもの町』に参加した。原発事故時、住民に安定ヨウ素剤を配った三春町の英断は素晴らしい。三春は東北地方最大の自由民権運動の中心地でもあった。この住民の日頃の活動やパワーが議会や町を動かしている。

原発事故当時に三春町に避難してきた大熊町と富岡町の住民の対応（連絡責任者）をしていたヨウ素剤に詳しい、大熊町の職員の知識をもとに安定ヨウ素剤の服用を三春町に提言したことにより、町職員、町長の素早い判断と、住民（区長、組長）の素早い、責任ある行動によるものだった。町の職員と住民+大熊町職員の連係が町民の命（健康）を救ったともいえる。

時系列の経緯は以下（原文のまま）。

2011 年

3 月 11 日 14 時 46 分

東北地方太平洋沖地震発生

3 月 11 日 19 時 03 分

原子力緊急事態宣言

3 月 12 日 15 時 36 分

福島第一原発 1 号機で爆発発生

3 月 12 日 18 時 25 分

大熊町、富岡町住民が三春町に避難

3 月 13 日 10 時 37 分

避難自治体が『安定ヨウ素剤』を住民に配布していること、

三春町職員が知る

経産省から福島県に SPEEDI の情報が FAX で送られる。しかし、すぐには公表されなかった。

3 月 14 日 11 時 01 分

福島第一原発 3 号機で爆発発生

40 歳以下の三春町町民、7248 人、3303 世帯分の「安定ヨウ素剤」を

職員が県対策本部(福島市)に取りに行く。

3 月 15 日 6 時 02 分

福島第一原発 4 号機で爆発、2 号機格納容器破損

経産省から福島県に SPEEDI の情報がメールで送られたが、

86 枚のうち 65 枚のデータを紛失。

風向きを確認するために、三春町は設置した吹き流しが、

風向きが東風に変わったことを示す(東側に福島第一原発がある)。

3月15日13時00分

三春町が「安定ヨウ素剤」の配布を開始する

『風しもの村、風しもの町』で安定ヨウ素剤配布に関し、三春の町民の声が以下から聴ける。4人目の元三春町長(伊藤寛さん 39:00~)の話は貴重。

<https://www.youtube.com/watch?v=6LeBiDF-96k>

それにしても安定ヨウ素剤の配布が福島県(地域医療課)の独自判断で配布されていれば、甲状腺がん患者がこれほど増えなかったのではないかと福島県・地域医療課の責任は重大である。

三春町が福島県庁に住民の数だけ安定ヨウ素剤を取りに行ったが、福島県からは、その後、三春町に安定ヨウ素剤の配布を抑えるようにと一旦電話があったようだ。福島県の混乱ぶりが、県民の甲状腺がん患者を増やしたと言える。

(国と県はこの責任を逃れる為にも400名以上の甲状腺がん患者の放射能の影響は認めるわけにはいかないのだろう。さらに、事故前に国側の安定ヨウ素剤の服用に関する基準作成に加わった鈴木元氏は今年7月まで甲状腺検査評価部会長として、「甲状腺がんは放射能の影響は考えにくい」との報告書を策定し、国と一体となって放射能の影響を否定する構図になっているとすれば福島県民としては不幸なこと)

三春町の当時の詳細な経緯等は以下をご覧ください。

[軽量版『あの日風しもの町で起きたこと』初版.pdf - Google ドライブ](#)

3. 安定ヨウ素剤配布と服用の課題

①40歳以上に適用しなかったことが本当に良かったのか?臨床・疫学からの検証が必要だが、年齢に関係なく安定ヨウ素剤を服用する必要があるだろう。今、福島では高齢者の甲状腺がん患者が増えている。飯館村民では甲状腺がんで亡くなった方もいる。当時飯館村にはプルームがどのよう to 降ったのが、放射能内部被ばくは約 1/100 に矮小化され(注1)、未だに闇に葬られたままだ。

②安定ヨウ素剤配布が東向きの風に代わってから配布を始めた。既にプルームが届いていれば、外出することにより内部被ばくをする可能性もある。更に安定ヨウ素剤はプルームが来る数時間前に服用することが必要だ。タイミングが遅かったのではないかと。

③各自治体は希望する家庭に安定ヨウ素剤を配るだけでなく、保育所・幼稚園、小中高校、企業

にも安定ヨウ素剤の常備と、教育・訓練が必要だろう。

④家庭に配布された安定ヨウ素剤は、国や自治体、電力会社が発信する放射線の環境への放出状況の情報をもとに、各個人の判断で服用できるような事前教育と訓練が必要であろう。これは家族や自らの命と健康を守る為の最大の防御である。

⑤京都大学の調査で、内服しなかった理由についての選択式回答では、内服に関する不安が最多の 46.7%を占めていた。アンケートの内服しなかった理由に関する自由回答欄について、テーマ分析による検討を行い、配布に関する課題、安定ヨウ素剤の効果・副作用の情報提供、内服方法に関する課題（特に乳幼児の内服）が浮かび上がった。また、今後の災害へ備えて内服しなかったという回答も見られた。

なお、三春町において、安定ヨウ素剤内服後の有害事象は報告されていない。

京都大学の調査から、健康な人が適量の安定ヨウ素剤を服用しても、副作用はないことが判明した。この事実を医師から事前に説明すべき。

（※但し、被ばくのリスクとの天秤にかて自己責任で最終判断必要）

詳細は京都大学の調査結果報告をご覧ください。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2019-01-10>

4. 当時の安定ヨウ素剤配布に関する質問主意書や報道記事

◆参議院の質問主意書（公明党浜田 昌良議員）

<https://www.sangiin.go.jp/japanese/joho1/kousei/syuisyo/178/syuh/s178033.htm>

◆政府答弁書

<https://www.sangiin.go.jp/japanese/joho1/kousei/syuisyo/178/meisai/m178033.htm>

◆福島民報新聞記事

https://www.minpo.jp/pub/topics/jishin2011/2012/03/post_3383.html

◆朝日新聞記事『原発事故時、ヨウ素剤服用の助言 900 人に届かず』

<https://www.asahi.com/special/10005/TKY20110250743.html>

5. 安定ヨウ素剤に関する放射線事故医療研究会主催の研究会での反省会

研究会の席上、鈴木氏(※)は「避難した後でも安定ヨウ素剤を服用すべきだった」と指摘した。「避難すれば服用は不要と考えられたが、避難方向によっては避難終了直前まで、プルーム(放射線物質の濃度が高い空気の塊)曝露があったと考えられる。避難所到着時の服用には意味があった」。例え、放射性ヨウ素を吸入した 4 時間後でも、安定ヨウ素剤の服用は 50%の防護効果がある。

※2025 年 7 月まで福島県の甲状腺検査評価部会長でもあった。詳細は以下をご覧ください。

<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/all/report/201109/521472.html>

6. 原子力災害伝承館は真実を伝えよ!~隠蔽された被ばくと甲状腺がんの真相~

原子力災害伝承館の展示も事故原因究明結果に関する反省も無く、何を後世に伝えるのか?昨年開催された「福島と放射能」と題した企画展でも、住民の被ばく矮小化したものであった。甲状腺がんは放射能の影響ではないと、130 か所の問題点のある UNSCEAR2020/2021 報告書(注1)の内容をそのまま展示していた。抗議によって一部は修正したものの、UNSCEAR2020/2021 報告書に依拠したものだから正しいとして修正を拒否した。伝承館の館長である長崎大学・高村昇氏の責任は重大。

詳細は以下のブログをご覧ください。

【原子力災害伝承館は真実を伝えよ】

<https://yuyujinsei2.seesaa.net/article/2024-07-29.html>

鹿砦社発刊の季刊誌『季節』夏・秋号に詳しく拙稿の報告記事が掲載されています。

ご興味があれば書店か Amazon から取り寄せ、お読みください。

注1:【UNSCEAR2020/2021 報告書には約 130 ヶ所の問題点】

原子放射線の影響に関する国連科学委員会(UNSCEAR)は 2021 年 3 月に『UNSCEAR2020/2021 報告書』I を発表しました。「放射線被ばくが直接の原因となる健康影響(例えば発がん)が将来的に見られる可能性は低い」との日本語のプレスリリースを発表し、メディアや国民を意図的にミスリードしました。英語の本文とは内容が大きく乖離したものでした。

2023 年 11 月に開催された日本放射線影響学会はじめ、多くのシンポジウムや学習会等で、本行・大阪大学名誉教授によって「UNSCEAR 2020/2021 報告書」には約 130 ヶ所の問題点(間違い、被ばく線量矮小化、歪曲・改竄等)があることが報告された。この日本放射線影響学会には甲状腺検査評価部会長の鈴木元氏も参加しており、特に質問も異論も無かったとのこと。詳細は以下をご覧ください。

<https://yuyujinsei2.seesaa.net/article/2024-03-05.html>